

社会福祉法人翠燿会

令和2年度事業報告書

特別養護老人ホームグリーンヒル
グリーンヒル短期入所生活介護
グリーンヒル居宅介護支援事業
グリーンヒルデイサービスセンター
同上 サテライト南デイホーム
グリーンヒル訪問介護
グリーンヒル福祉タクシー

特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台
グリーンヒル八千代台短期入所生活介護
グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業
グリーンヒル八千代台小規模多機能型居宅介護
同上 サテライト勝田台
グリーンヒル八千代台訪問介護
グリーンヒル八千代台キッズルーム

障害児通所事業
グリーンヒルキッズ村上
グリーンヒルキッズゆりのき台

自立援助ホーム
グリーンヒル若葉ハウス

八千代市勝田台地域包括支援センター
介護予防支援事業

法人本部総務課

令和3年5月

社会福祉法人 翠燿会

【令和2年度 特養・短期グリーンヒル 事業報告】

1) 目標稼働に対する実働状況

- ・令和2年度に於ける特養・短期の目標値117.5に対し年間115.5となりました。
入院延べ日数に於いて平成30年度が1,195日、令和元年度が882日、令和2年度が683日と年間を通し、職種間の連携からご利用者の体調管理を図ったことで、ご利用者の入院を減らす事が出来た一方で度重なる退所の利用者に対し、新規入所者の受け入れ準備が整わずに空きベッドをつくってしまった事が大きく影響した理由の一つと考えられます。

2) 組織体制の強化

- ・技能実習生(第1・2期)の語学力や介護技術の向上。第3期の2名が令和3年2月に来日しスタッフの指導を受けながら特養のシフトを任される人材となれるように努力しています。
年間で9件のターミナルケアを実施する中で囑託医には全9件を看取って頂きました。状態変化に於ける家族への報告や主治医との連携により、ご家族への安心感を提供出来ていたと感じます。

3) その他

年間を通し新型コロナウイルス感染症への対応を余儀なくされる1年となり、ご利用者にとってはご家族との面会制限、外出の自粛等日々の生活が大きく変化する中、納涼会では屋内での金魚すくい、敬老会ではご家族の協力のもとビデオレターの放映、お花見では屋内で桜の映像を流しながら抹茶の提供と例年になく企画の工夫を行っていました。その中で職員は、日々の手洗い、消毒、検温、PCR検査の実施、室内の換気の徹底にて予防に努める等、様々な努力により施設内にウイルスを持ち込まない為の行動が実を結び今年度はクラスターを起さずに1年を通せたことは最大の実績と思われれます。

令和3年度 管理部栄養科 事業実績報告

グリーンヒル栄養管理室 グリーンヒル八千代台栄養管理室

栄養科の理念

- ・ご利用者の健康状態や身体状況に応じた栄養管理(栄養ケアマネジメント)サービスが多職種と協力して行い、個人にあったADLの維持・向上に努めます。
- ・ご利用者にふさわしく安全で質の高い食事サービスを提供します。

令和3年度
利用者食事摂取推奨量
(2020年版、日本人の食事摂取基準に準拠)

GH 令和3年 4月1日 現在	
エネルギー	1652Kcal
蛋白質	61.9g

GH八千代台 令和3年 4月1日 現在	
エネルギー	1690Kcal
蛋白質	63.4g

令和2年4月～令和3年3月における入所者の実態

令和2年度 グリーンヒル入所者実績				令和3年度 グリーンヒル入所者計画			
	男性	女性	平均		男性	女性	平均
入所者	24名	82名		入所者	21名	79名	
年齢	82.2歳	86.8歳	84.6歳	年齢	81.8歳	88.1歳	84.9歳
介護度	3.6	4.0	3.9	介護度	3.9	3.5	3.7

令和2年度 グリーンヒル八千代台実績				令和3年度 グリーンヒル八千代台計画			
	男性	女性	平均		男性	女性	平均
入所者	4名	24名		入所者	3名	26名	
年齢	88.3歳	88.2歳	88.2歳	年齢	86.0歳	88.3歳	87.2歳
介護度	4.0	4.6	4.3	介護度	4.3	4.5	4.4

令和元年、令和2年における食数実績

	食数実績	令和2年度	食数実績	令和元年度
グリーンヒル	利用者	134685食	利用者	133182食
	職員	10737食	職員	11607食
グリーンヒル八千代台	利用者	53090食	利用者	52430食
	職員	5678食	職員	6573食
合計		204190食食		203972食食

特定給食施設の管理
フードサービス形態
クックチル
A セントラルキッチン

給食業務完全委託方式
A [グリーンヒル特養・通所
グリーンヒル八千代台特養
B 給食業務直営方式
グリーンヒル八千代台・小規模多機能

A方式の帳票類は別途区分管理とする
・災害時発生時、食中毒・感染症発生時、マニュアルに準じる
・大量調理施設マニュアルに準じる
・食品衛生法の衛生安全管理の維持徹底(HACCP対策 R3.6月)
・特別な個別膳 調整食(ミキサー食)
・保存食・公衆衛生の実施(厨房内消毒4回/年・グリスラップ 1回/年)
院外調理(ひまわり)→小規模施設(サテライトキッチン)
配膳・調理従事者の個人の衛生管理

非常用食品の確保

- ・災害対策マニュアル(保有)
- ・天災害時の調理を必要としない食事サービスとして備蓄食品
- ・施設諸行事に伴う食事支援

・備蓄食品(非常用食品)の保管・資料 献立表 (有)

行事食

- ・敬老会祝 緑GH利用者 150食 職員 55食
GH八千代台 利用者 41食 職員 9食
- ・個別対応食 おせち料理 お取り寄せ(やわらか食)1名 個人負担

会議

栄養委員会(給食会議・NCM会議)
・給食会議(食事委員会と調整連絡)
・NCM会議(低栄養者及びケアプラン委員会と合同)

グリーンヒル
定例 第3木曜日 午前9時30分～ 会議室 12回/年
グリーンヒル八千代台

栄養ケア・マネジメント

基本方針
I. 栄養ケアマネジメント 全利用者実施
4回/年スクリーニング実施
II. 経口維持実施(経口維持 I・II)
(医師・歯科医師による評価者)

日時不定期 1回/月
①食事調査実施
・食事喫食量・水分摂取量・排尿量記入表
・生活と身体の状況記録(介護・看護・栄養記録)
内容 身体計測、摂取目標量、摂取状況調査項目
栄養アセスメント、栄養ケア計画書(施設版)
*食事調査は利用者の共有個別資料とする。
②低栄養状態の改善として、栄養計画による
・食事・栄養管理、評価判定を行う。
・低栄養状態の改善目標として、栄養強化食品を推奨する。(但し、個別管理品は個別負担とする)

本年度の経緯と考察

- ①教育研修計画
 - ・栄養ケアシステムの向上
- ②所轄の保健所の巡回指導実施
- ③グリーンヒル(CK)とグリーンヒル八千代台(SK)の給食はデリバリー方式、グリーンヒル八千代台
 - ・調理チーム結成(小規模多機能 サテライトグリーンヒル南デイホーム)(H28年4月)
 - 方式(CK)(SK)との業務は分離独自型
 - 供食対象:利用者食・職員食
- ④施設管理栄養士のシフト体制
- ⑤給食栄養利用者向け広報誌発行
- ⑥臨地実習実施

- ・看護、介護、栄養の専門性の連携を共同実施した
- ・給食栄養管理の改正に伴う帳票管理 巡回指導の実施なし
- ・給食経営管理部門として一全面委託化 } クックチル方式継続
業務委託、食材料費委託
- 及び院外調理(ひまわり)を導入した小規模多機能 クックサブ方式
- ・CKグリーンヒルのイベント、栄養委員会など
グリーンヒル八千代台(SK)と連携・提携区分、
分離区分を共有化した
※CK=セントラルキッチン・SK=サテライトキッチン
- ・グリーンヒル 8:30～17:30 (2名)
- ・グリーンヒル八千代台 8:30～17:30 (1名)
- “食&栄養”おいしいお知らせ 4回/年
- ・聖徳大学人間栄養学部 3学年 1名(10月 5日間)

以上

令和2年度事業報告

グリーンヒル通所介護事業所

1】 令和2年度利用状況（本体通所介護）

- ・ 年間を通じて、1日平均利用26名を目標とし、職員全体で行ってききましたが、年間の新規獲得の利用者は18名で、登録人数としては前年度と変わらず、70名前後を推移した状況でした。

年間延べ利用者数7,430人、一日平均利用者数24人と前年度より、若干の増となった状況ではあったものの、平均利用者数の目標値は達成できなかった。新型コロナウイルス感染症による、ご利用者の状況は、一度目の緊急事態宣言の際に、数名の方が利用を控えた状況があったが、6月頃からは通常に戻り一年を通してウイルスの感染等もなく、事業を行う事ができた。この状況下の中、目標値には届かないものの、黒字の決済が出来たことを、来年度にも活かし引き続き感染予防対策を徹底し、サービスを行っていきたいと考えます。

（サテライト南デイホーム）

- ・ 年間の目標として、1日6名を目標として行ってきましたが、新規のご利用者もなかなか獲得できない状況で、年の平均利用者数においても1日平均2.7人と減少してしまいました。

職員の人員配置を考え、本体兼務などを行ったが、新規の利用者の獲得が出来ず、赤字の決済となってしまった。少人数のサービスの利点を活かした外出なども、コロナ禍で出来ずなかなか難しい状況でもあった。

しかしながら、5月に入り新規利用者も2名入り、少しずつだが増えても来ている。

新年度についても、コロナ禍の状況はまだまだ続いてしまうと思いますが、今年度以上に感染対策をしっかり行い、少人数での利点を活かしたサービスを行い、新年度に繋げていきたいと考えます。

令和3年度利用者人数目標

本体通所介護：一日平均26名

サテライト南デイ：一日平均5名

(別紙 1)

研修日時予定	研修内容
4月最終週	ヘルパー業務の区分と実際 ・基本サービスと個別サービス（身体介護、生活援助） 初回訪問手順、サービスに関するルール、記録の書き方 ・サービス提供にあたっての基本的事項 基本姿勢・行動指針・個人情報保護・接遇
5月最終週	感染症・食中毒予防マニュアル ・感染症とは ・感染症の種類 ・予防するには?? ・生活援助での食中毒予防のポイント
6月最終週	令和2年度事業計画について 法人内研修報告
7月最終週	認知症介護について ・認知症を理解するために ・認知症とは ・認知症介護のポイント ・具体的な対応方法
8月最終週	突然の事故・緊急対応時マニュアル ・おかしいと感じた場合の確認事項と対応 ・事業所の緊急時の体制について 応急処置、救命処置について
9月最終週	自然災害発生時の対応および事業継続計画について
10月最終週	新型コロナウイルス感染症発生時の対応および事業継続計画について
11月最終週	相談、苦情対応マニュアル ・相談対応について・苦情対応について 倫理規定について 鍵の管理、金銭管理について
12月最終週	インフルエンザ・ノロウイルス等感染症について ノロウイルス等の対処方法について（実技）
1月最終週	・事件事例、ヒヤリ・ハット事例の検討 ・苦情、相談事例の検討
2月最終週	自己評価
3月最終週	業務改善検討会議 マニュアルの見直し 事業計画達成

3. 令和2年度の特養・短期の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年
月末利用登録者	28	27	29	28	28	28	27	29	29	29	28	29	28.25
入所延日数	840	839	869	881	868	840	846	868	893	899	812	899	10354
入院延日数	16	47	42	23	55	6	0	68	22	17	48	62	406
利用実日数	824	792	827	857	813	834	846	800	871	882	767	837	9950
1日平均利用者数	27.5	25.5	27.6	27.6	28.0	28.0	28.5	28.7	29.0	29.0	28.2	27.0	27.89
平均介護度	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.50
(介護度4・5割合)70%	96.4%	96.3%	96.6%	96.4%	96.4%	96.4%	96.3%	96.6%	96.6%	96.6%	96.4%	96.6%	96.5%
新規入所者数	0	0	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	5
(内介護度4以上)	0	0	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	5
(内認知度Ⅲ以上)	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
退所者数	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	4
負担限度額認定者	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8.08
短期請求件数	19	20	19	19	21	20	23	24	23	23	19	23	21.08
短期入所延日数	317	352	344	355	394	338	357	370	338	312	292	357	4126
特養・短期合計延日数	1,141	1,144	1,171	1,212	1,207	1,172	1,203	1,170	1,209	1,194	1,056	1,194	14,073
特養・短期1日平均数	38.03	36.90	39.00	39.00	38.93	39.00	38.80	39.00	39.00	38.51	37.71	38.51	38.53
稼働率	97.5%	94.6%	100.1%	100.0%	99.8%	100.2%	99.5%	100.0%	100.0%	98.8%	96.7%	98.8%	98.83%

資料

第1表 入院者数の推移（前年度比）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延人数	延日数	入院⇒永眠	入院3ヶ月越
R1年度		1					1	2				2	6	52	0	
R2年度	入院	1	2	3	3	1		3	2	2	3	3	26	406	1	
	長期入院				1								1			1

第2表 令和2年度入院者一覧

	入居者氏名	入院日	退院・(死亡)日	病院	入院診断名	備考
1	[氏名欄]	R2.4.14	R2.7.13	セントマーガレット	胆のう炎	長期入院(退所)
2		R2.5.15	R2.6.2	習志野第一病院	左大腿骨遠位端骨折	
3		R2.6.19	R2.7.10	セントマーガレット	尿路感染症	
4		R2.7.29	R2.8.13	セントマーガレット	誤嚥性肺炎	
5		R2.8.7	R2.8.25	セントマーガレット	脱水	
6		R2.8.5	R2.9.7	セントマーガレット	心不全	
7		R2.11.3	R2.12.22	セントマーガレット	誤嚥性肺炎	
8		R2.11.6	R2.12.2	セントマーガレット	心不全	
9		R2.11.9	R2.11.27	勝田台病院	尿路感染症	
10		R3.1.7	R3.1.16	八千代医療センター	左鼻出血	
11		R3.1.22	R3.3.16	最成病院	脱水・下行結腸癌進行	
12		R3.2.10	R3.3.6	セントマーガレット	尿路感染症	
13		R3.2.26	R3.3.25	セントマーガレット	腸閉塞	
14		R3.3.18	入院中	セントマーガレット	脱水	
15		R3.3.26	R3.4.11	セントマーガレット	腸閉塞	長期入院(退所)

【令和2年度 年間入院率 3.92%（令和元年度 年間入院率 0.50%）】※前年度より 3.42%増加

第3表 令和2年度理由別退所者数（看取り介護等の履歴（開設当初より））

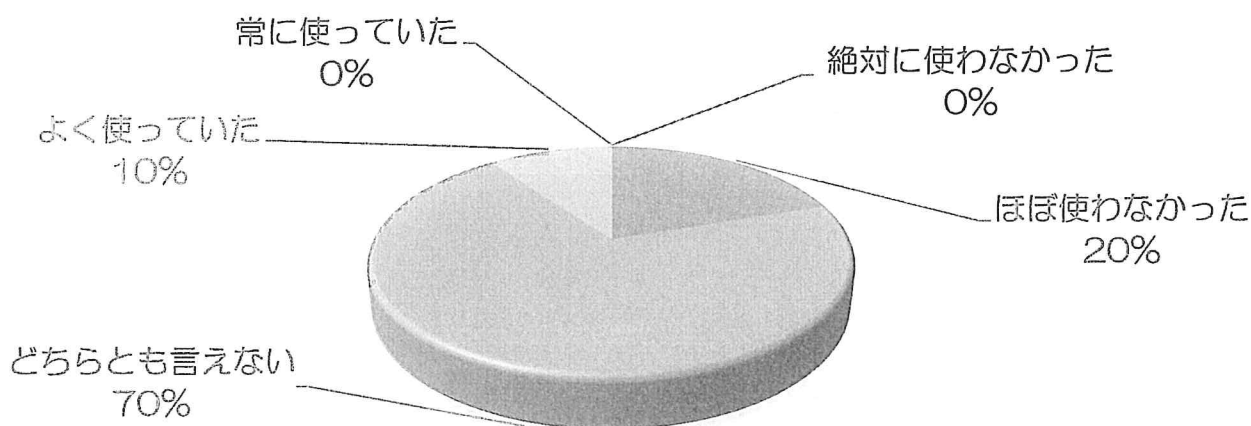
	GHY看取り死亡退所	医療機関死亡退所	長期入院	在宅復帰	その他：本体・突然	合計			
H19年度	0	3	2	1	0	6	H19.10.1	～	H20.3.31
H20年度	4	8	2	0	2	16	H20.4.1	～	H21.3.31
H21年度	3	2	4	1	0	10	H21.4.1	～	H22.3.31
H22年度	0	1	2	1	2	6	H22.4.1	～	H23.3.31
H23年度	1	1	1	1	0	4	H23.4.1	～	H24.3.31
H24年度	3	4	2	0	0	9	H24.4.1	～	H25.3.31
H25年度	4	2	2	0	1	9	H25.4.1	～	H26.3.31
H26年度	11	3	2	0	0	16	H26.4.1	～	H27.3.31
H27年度	3	4	3	0	0	10	H27.4.1	～	H28.3.31
H28年度	4	1	2	0	0	7	H28.4.1	～	H29.3.31
H29年度	4	1	0	0	0	5	H29.4.1	～	H30.3.31
H30年度	1	0	1	1	2	5	H30.4.1	～	H31.3.31
R1年度	2	2	0	0	0	4	H31.4.1	～	R2.3.31
R2年度	2	1	1	0	0	4	R2.4.1	～	R3.3.31

令和2年度
ばら・つつじユニット
理念の振り返り

～ 介護方針 ～
【健康と笑顔】

『スピーチロックの禁止』

- ・ご利用者様にお声かけいただいた際には、必ず立ち止まり、椅子に座るなどして目線を下げ、ご利用者様の尊厳を尊重した声掛けを実施します。
- ・スピーチロックの禁止 ⇒ 「待ってて」「座ってて」「〇〇してて」を使用しない。



達成率：20%

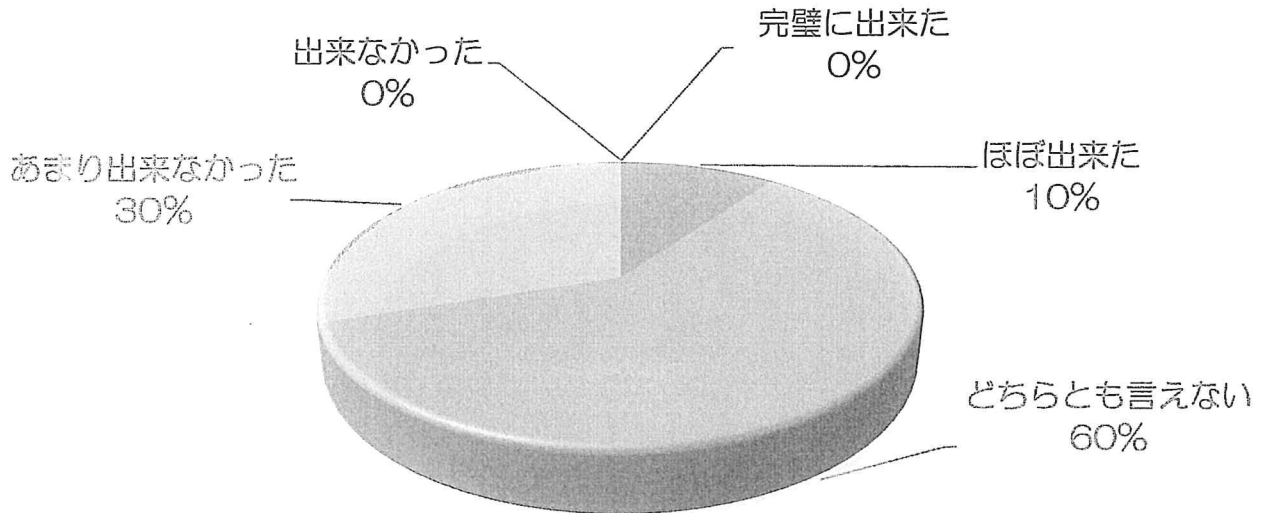
<職員からの意見>

- ・スピーチロックがわからない。絶対に使わないが良いとは思っていない。
- ・以前とは違い「ちょっと待っててね…〇〇終わったら行きます」と必ず約束し、介助を待ってもらった事はあった。
- ・使わなかったと言ったら、うそになる。「ちょっと待ってて」「あぶない」と声に出して言うってしまう。言い訳をして逃れたい気持ちもある。1人待機の時もあるが職種を問わず協力を図る。職員のコミュニケーションも大切。
- ・ご利用者の言葉や行動を封じるような言葉かけは、なるべく避けたようにしたが、ついつい口から出てしまう事があった。
- ・なるべく使わないように気をつけてはいたが、不意に出ちゃってる時があったと思う。
- ・「ちょっとまってて」とどのぶらい待つのか、何で待たされているのか等の説明をしていなかった。
- ・自身ではほぼ使っていないつもりですが、他の職員から見たらもしかしたら言っていたかもしれません。
- ・自分では使っていないとは思いますが、気が付かない所で使ってしまう、と思います。声をかける前に（時に）どの様に言えば怒ったり嫌な思いをしないかを、考えるようにしています。自分も含めてユニット2階の評価としては、やはりどちらとも言えず、スピーチロック使っている事もあると思います。中にはとても優しい言葉をかけている方もいます。言葉の使い方、相手（利用者）の事を考えてもっと上手に使えるようにしたいですね。

Ⅱ.ケアの重点項目

①『個別ケアの統一を図る』

- ・全利用者様対象にカンファレンスを実施。ご利用者様、ご家族様の要望（ニーズ）を「24時間シート・介護計画書」に反映させることで、個別ケアの内容の周知と統一を図ります。
- ・PDCAサイクルを活用し、「24時間シート・介護計画書」の見直しを行います。



達成率：10%

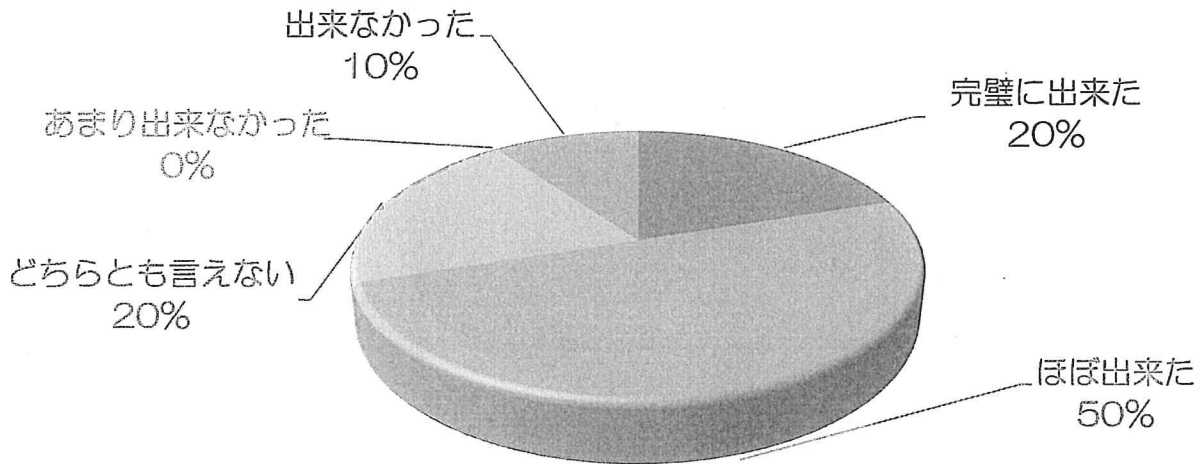
<職員からの意見>

- ・24時間シートや介護計画書を細目に変更し、適したケアが出来ていたが『利用者全員』とまではいかなかった。
- ・カンファレンスに関しては個人的には参加でき、とても良かった。皆に24時間シート、計画書を記入してもらうのは良いと思った。
- ・ある程度できていると思いますが、確認しながら行うようにしていました。
- ・口頭レベルでは、よくできていると思う。しかし情報共有の方法として実践的に有効なのは連絡ノート、ホワイトボード、24時間シートくらいで充分とは言えない。と感じる。介護計画書は、情報が多すぎて、実践に使うには使いづらい。
- ・24時間シートの見直し、介護計画書の見直しは行ったが利用者の意見などあまり聞けていないと思った。
- ・担当利用者様の24時間シートを変更後に、他職員への周知が難しかった。
- ・すべての内容を覚える事が難しく、活用できていない所もあります。覚えきれない所は他職員に聞いたり、教えてもらいながら行う事が出来たと思います。

Ⅱ.ケアの重点項目

③『医食同源 ～食に季節感と楽しみを～』

- ・手作りおやつを実施します。
- ・「季節の食材」を用いたイベント食を提供（目の前で調理）することで、ご利用者様の「食への楽しみ」に繋がります（毎月）
- ・経管者の方々にも季節感を感じて頂ける様、環境整備（居室の設え等）に工夫を加えます。



達成率：70%

<職員からの意見>

- ・イベント食では、ご利用者様と一緒に作れたことが、とても良かったと思います。
- ・イベント食などでは毎回、利用者様の笑顔が見られていたので、良かったです。経管者には季節のお花を飾ってみたり、部屋にいながらも季節感を感じてもらえたと思います。これからも継続出来たらいいと思いました。
- ・手作りおやつの実施やイベント食の提供、目の前での調理など一緒にできる利用者にはお手伝いして頂き、楽しみながらできたのでは？と思います。
- ・イベント食は女性職員に任せてしまい、自分自身何もできなかった。
- ・イベントやおやつなど、ご利用者の笑顔もみれた。経管者には花を飾るなど工夫もされていたので出来たと思う。
- ・「手作りおやつ」や「イベント食」の提供は、職員はよく頑張ったと思う。「ご利用者をまきこんで一緒に楽しんで出来たか」という事については不十分だったと感じる。「手伝わされている」と言う苦情も聞かれた。
- ・行事などにとらわれず、春夏秋冬問わず、その日の雰囲気や即興で、ベランダでの花見で一杯ワイワイガヤガヤ皆さんでホットプレートを囲み、ちょっとつまみ食い、ワイワイガヤガヤ楽しみましょう。
- ・楽しみました。つつじも、ばらも一緒に好評でした。
- ・毎月の事で大変かとは思いましたが、行えていたので良かった。職員でいろんなアイデアが出てとても良かったと思う。
- ・コロナ禍の為、省略してしまう時もあった。

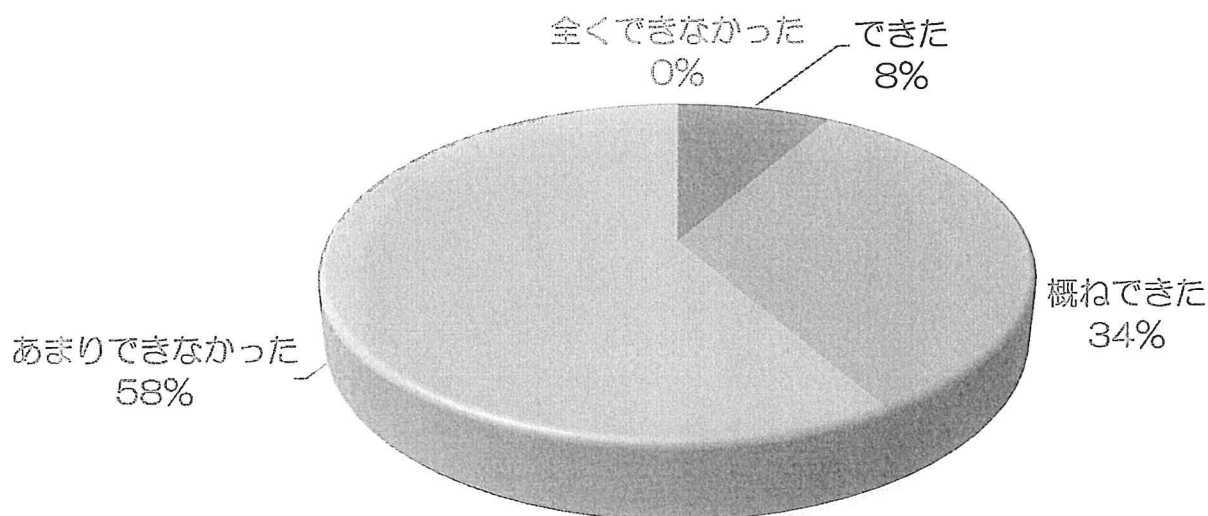
令和2年度
梨の花・新川ユニット
理念の振り返り

～ 介護方針 ～
【安心・笑顔で美しく】

Ⅱ.ケアの重点目標

1、『介護計画書・24時間ケアプランの活用』

- ・計画、プラン等を職員全員で見直し、考える事でケアの統一化を図ります。
- ・ご家族とのコミュニケーションを密に行い、入居前の生活を維持していきます。



達成率：42%

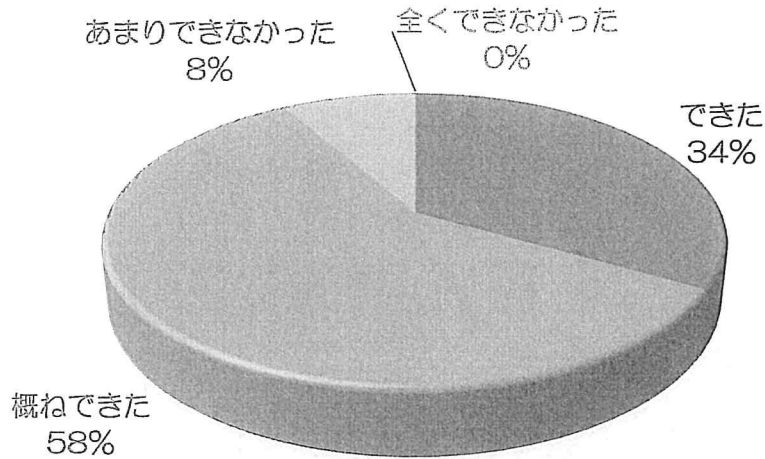
<各職員からの意見>

- ・見直すことができた。
- ・現場のケアは利用者を思って出来ていると思うし、ユニット会議も活発になり良いと思うが、計画、プランとのつながりについてはもう少し改善が必要と思う（努力します）
- ・ご家族には会う機会がなくコミュニケーションはあまりできなかった。計画等は、施設ケアマネ中心に見直すことが一部のみんなでできた。
- ・入居前の生活を考えながら、ケアを行っている。
- ・職員同士で話し合い、各ご利用者のプランに合わせてケアが出来ました。
- ・会議等の場で話し合えなかった。面会は中止しているため、F aと関われなかった。
- ・細目に状態が変化してしまう方などに対して情報が追いつかない時があった。ご家族と話す機会が少なかった。
- ・職員全員が見たのかはわかりません。コロナもあり密に出来なかったです。
- ・入居の長い方が多く施設での生活に馴染んでしまっている。プランやケアの見直し等は会議で情報を共有し同等のケアを提供できていると思う。
- ・職員全員のケアの統一化は難しかったような気がします。入居前の生活を知らうとしました。
- ・十分な時間をとり作成ができなかった。ご家族とのコミュニケーションを密にとる事が出来なかった。
- ・ご家族と直接お話しする機会が少なかった。

Ⅱ.ケアの重点項目

3、『生活環境』

- ・居室に入った際は居室内を見渡し、必ず整理・整頓してから退室します。
- ・衣類が汚れていたらすぐに着替え、お顔まわり（髪の毛や目やに等）は常に美しく見えるようにご利用者の身だしなみに気を配ります。



達成率：92%

〈各職員からの意見〉

- ・気をつけて実行していた。
- ・身だしなみ、衣類など昨年より気にすることができた。居室も整頓するように心がけました。
- ・身だしなみに気を配られた。
- ・自分や自分の家族なら、汚いのは嫌なのでいつも心がけています。
- ・毎日、汚れた衣類は洗濯に出していた。居室に入った際、整理・整頓はざっとしか出来ていなかったと思う。
- ・技能実習生のおかげで、見直すきっかけになった。
- ・お顔がきれいになった。
- ・身だしなみに気を配っている事を時々怠ってしまった。
- ・ご本人はきれいにできる様注意していたが、部屋おろそかになりがちであった。
- ・気になった所は行っていた。
- ・心掛けていた。
- ・居室に入った際は、整理・整頓を実施し髪の毛や目やにに気を配る事を意識しております。

令和2年度 事業報告

グリーンヒル八千代台 医務課

今年度の新入所者は5名であり、退所者は4名で内訳は、看取りで永眠された方2名、急変して救急搬送後に永眠された方が1名、長期入院の為の方が1名でした。入院者数はのべ13名で、昨年度の約3倍となりましたが、5名の方が2度の入院となりました。心不全、誤嚥性肺炎、尿路感染症等の疾患で高齢者に多く見られる疾患でした。

褥瘡の発生に関しては2名で、1名は骨折で入院中にできたもので、施設に帰って来て処置し完治しました。もう1名は、繰り返しの発生者で皮膚の弱さと日々のケア(清潔・除圧)の不十分による発生と考えます。課題を徹底しケアの充実を図りたい。

感染症に関しては、新型コロナウイルスの発生が小規模多機能で家族感染による陽性者が職員で1名ありましたが、その後は無く経過し、3月と4月に施行したPCR検査は施行者全員が陰性でした。また、12月に小規模多機能利用者を含む4名の疥癬の発生があり、他の入所者への感染は無く終息に約1ヶ月を要しました。インフルエンザとノロウイルスの発生は無く、手洗い・うがい・マスク着用・体温測定・体調管理等を職員が徹底出来た結果と考えます。今後も新型コロナウイルスの感染対策として、入所者に対しては、ベースとなる酸素飽和濃度の周知をふまえた健康チェックと1日1回の検温を行い、職員に対しては、健康チェック、1日2回の検温、マスクの着用、マスク・衣類の交換、体調管理を実施して行きます。

第1表 入院者数の推移(前年度比)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延人数	延日数	入院⇒永眠	入院3ヶ月越
R1年度		1					1	2				2	6	52	0	
R2年度	入院	1	2	3	3	3	1		3	2	2	3	3	26	406	1
	長期入院				1									1		1

第2表 令和2年度入院者一覧

	入居者氏名	入院日	退院(死亡)日	病 院	入院理由	備 考
1		R2.4.14	R2.7.13	セントマーガレット	胆のう炎	長期入院(退所)
2		R2.5.15	R2.6.2	習志野第一病院	左大腿骨遠位端骨折	
3		R2.6.19	R2.7.10	セントマーガレット	尿路感染症	
4		R2.7.29	R2.8.13	セントマーガレット	誤嚥性肺炎	
5		R2.8.7	R2.8.25	セントマーガレット	脱水	
6		R2.8.5	R2.9.7	セントマーガレット	心不全	
7		R2.11.3	R2.12.22	セントマーガレット	誤嚥性肺炎	
8		R2.11.6	R2.12.2	セントマーガレット	心不全	
9		R2.11.9	R2.11.27	餅田台病院	尿路感染症	
10		R3.1.7	R3.1.16	八千代医療センター	左鼻出血	
11		R3.1.22	R3.3.16	豊成病院	脱水・下行結腸癌進行	
12		R3.2.10	R3.3.6	セントマーガレット	尿路感染症	
13		R3.2.26	R3.3.25	セントマーガレット	腸閉塞	
14		R3.3.18	入院中	セントマーガレット	脱水	
15		R3.3.26	R3.4.11	セントマーガレット	腸閉塞	長期入院(退所)

【令和2年度 年間入院率 3.92% (令和元年度 年間入院率 0.50%)】 ※前年度より 3.42%増加

グリーンヒル八千代台 小規模多機能型居宅介護 【令和元年度 事業報告】

1. 目標

令和2年度の小規模多機能については、目標値である28名登録以上については、年間平均28.7名（稼働率98.9%）、平均介護度2.7となり、目標であった平均稼働率98%・介護度2.5をとともにクリアすることができた。5月頃より新型コロナウイルスによる入所控えをしていた特養及びグループホーム、サー高住が一斉入所へ転じたため、在宅サービス中止になる方も多く、苦しい局面を迎えてたが小規模多機能型居宅介護においては徐々に「登録制の定員・職員総数・通い、訪問、泊まりの一体型サービス」により他サービスよりも少人数で支援体制で感染リスク確率が少しでも少なくなるように他の在宅サービスからの変更希望が増えたことにより目標を達成することができた。また、入院すると面会が難しいことから自宅での看取り期を過ごす希望があり、看取りを支援するケースが3件（看取り加算）あり、地域包括ケアの一端を担うことができました。

法人及び各事業所が抱えている人材・人員において「募集・面接・育成、教育・定着、管理」などの課題を算出し「エンゲージメント」＝（法人に対する職員の信頼度や愛着度を示す重要な概念）を高めるため、「不安→安心・不信→信頼・不満→満足」 報連相をどこでもできる状態にすることで 時間的制約を減らし、働きやすい環境を提供し、エンゲージメントUPのために、法人内の人間関係を強化する取り組みを積極的に取り入れ、採用・育成プログラムの計画的行っていけるプロセス・仕組みづくりが急務と考えられる。

2. 内容

ICTを活用することで、情報発信と対応も行ない易いですが、見落としを防ぐ為にも全体で把握を目指し、口頭での確認と職員間での把握内容の照らし合わせも行なうようにしました。また、LINEWORKSの機能も活用し、各ご利用者の基本情報及び統一して行なうケア、物品場所などを一括にすることで即時の確認もできるようにしていくことで個々の職員のスキルアップをするため、今後は更なる職員の個別IDによるシステム構築を築いていくことが大切だと考えられる。今後もICTのみならず職員間での意見交換もしっかり行ない、連絡・報告・相談を基本に、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。

高稼働率を維持するために、定型的な業務から高度な判断を伴う業務まで詳細な手順を定めているため、職員の習熟度を段階的に引き上げていく育成計画が必要となっている。定型業務レベルの職員には、リスクの見える化等により、事故防止と利用者・介護者の生活全般を観察する視点を教育するとともに、新人育成において、トレーナー& トレーニー関係を構築し、新人職員が安心して相談できる環境を整えることにより、人材定着を図ることができるよう、法人本部・八千代台（特養・SS・居宅介護支援・訪問介護・栄養課・キッズルーム）上高野（特養・SS・通所介護・居宅介護支援など）や勝田台地域包括支援センターとの連携・協働していける体制づくりをしていく。

3. サービス提供について

新型コロナウイルスの影響により、各種行事は中止になり、地域の方々との交流も少なくなりましたが、日々の中では近隣の方や馴染みのお店などのご協力、ご支援をいただき、ご利用者の生活が支援出来ました。

また外出企画は出来ませんでしたが、ご利用者の日々の活動の工作或絵画などをステーションギャラリーに展示することにより日々の生活に生きがいもてるように支援を行なうことができた。

地域包括システムにおける第一目的のフレイル予防などについては「グサイ」や体操クラブなどを公民館と共に活動再開をスタートできてきているので新たな形での活動方法の模索が必要となっている。

グリーンヒル八千代台 訪問介護

【令和2年度 事業報告】

1. 運営状況

一月再開時よりコロナ禍のため居宅事業所への挨拶等伺えず、ケアマネージャーとも主に電話やFAXでのやりとりという状況で数か月たっております。しかしながら個々のヘルパーのご利用者からの信頼もあり、最近では新規のご依頼もかなりいただけるようになってきております。依頼内容としては退院後であったり状態変化であったりという理由で毎日のご利用を希望されるケースも多く、限られた人数のヘルパーの中で可能な限り対応しているところです。

2. 職員体制・研修について

○管理者1名、サービス提供責任者1名、ヘルパー5名

今年度は一名が介護福祉士を受験し、合格しています。

○コロナワクチン一回目6名接種済み、来月より健康診断実施について日程調整中です。

○研修・会議について休止前は17:30～行っていましたが、現在ヘルパー少数のためできるだけ全員が出席できるよう、個々に調整を図って日程を決めるようにしていく予定です。参加調整できなかった場合は、別日に機会を設けて伝達と研修を行います。また、技能の不足しているヘルパーに関しては、同行訪問の形で繰り返し現場研修を行っています。外部の研修についても参加予定です。

3. 課題と今後の方針

前述のとおり、新規の依頼が病院・小規模多機能・特養等入所施設間の移動のワンクッションの役割が求められるケースが増えてきています。ケアマネージャーとの連携を特に重視し、ヘルパーのスキルアップを図り、ご自宅でも不安なく生活できるよう対応していきたいと考えております。

令和2年度目標値及び実績

	1月	2月	3月
目標人数	27	28	30
実績人数	26	27	29

2020年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
幼児	30	26	28	30	25	27	30	29	24	27	39	59	374
学童	11	15	6	7	18	4	3	3	6	12	11	12	108
合計	41	41	34	37	43	31	33	32	30	39	50	71	482
2019年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
幼児	8	0	0	0	0	0	0	8	0	0	10	15	41
学童	40	28	18	37	75	23	9	15	32	8	10	29	324
合計	48	28	18	37	75	23	9	23	32	8	20	44	365

主催 サンコーポ自治会クリーン推進部 サンコーポ勝田台住居者 毎回 15名
協力 小規模多機能型居宅介護 サテライトグリーンヒル勝田台 花島 辻内 久下 吉村

4 八千代台元気クラブ (2011年より)

主催 小規模多機能型居宅介護 グリーンヒル八千代台 担当 上田 白土
日時 毎週水曜日 13:30~15:00
場所 高齢者複合ケア施設 グリーンヒル八千代台(応接室)
内容 編み物 絵手紙等 参加 地域の方々 定員7名/回

5 サンコーポ勝田台 自治会便り発刊 (2018年より)

発行 サンコーポ勝田台自治会 発刊 毎月1日 部数400部
内容 自治会メンバーが書いた記事を頂き、発刊物のレイアウト及び編集・印刷作業を協力
協力 小規模多機能型居宅介護 花島 大竹

6 体操教室 「元気がつくる健康 健康管理でいつまでも元気に」

主催 勝田台公民館 協力 グリーンヒル八千代台 担当 大塚PT 武田PT 大竹
日時 9/4 10/2 12/11 参加者 10名(各回)
場所 勝田台公民館 体育室
内容 国立長寿医療研究センターが開発した、高齢者のためのエクササイズ簡単な計算やしりとりなどの課題を運動と一緒に行うことで、認知症の予防と健康促進を目指す。

7 勝田台体操クラブ (クラブ主催) 後援:勝田台公民館

担当:グリーンヒル八千代台 加藤PT 武田PT 連絡調整等 大竹
第1(基本)土曜日 (予備 第3土曜) 10:00~12:00 勝田台公民館 体育室
7/4 9/5 10/3 11/7 12/5 1/16(第三) 2/6 3/6 参加者 15名(各回)

8 共生Café ふらっとホーム グリーンヒル (臨時 食材配布)

協同開催 八千代市社会福祉協議会 八千代台西北支会
日時 1/28 3/1 15:00~17:00
場所 グリーンヒル八千代台ピロティにて
内容 フードバンクである八千代市社会福祉協議会と協力し、地区社協である八千代台西北支会と協同し地域の方々へ臨時開催ではあるが食材配布を行なう。

☆ 新型コロナウイルスの影響にて感染拡大を予防のため中止となった予定活動

- 1 料理教室 勝田台公民館
- 2 サンコーポ勝田台自治会 餅つき大会(歳末助け合い募金運動)
- 3 グリーンヒル八千代台 お餅つき大会・グリーンヒル八千代台 夏まつり
- 4 GHY地域サークル(さるぼぼ等) 勝田台サンコーポD棟 集会室

令和2年度 事業報告

グリーンヒルキッズ 村上

1 事業目標について

稼働率 年間稼働率 81%

コロナウイルス感染予防のため休校措置が続いた。そのため、6月ごろまでは平日も定員の10名を確保することができなかった。学校が再開してからは、徐々に定員の数値に近づいたが、祝祭日の利用が少ないので、目標の稼働率を達成することができなかった。

2 事業内容について

稼働率向上の取り組みについて

- ・学校再開後は、平日10名の利用者を確保することができている。祝祭日の利用者が少ない傾向は続いているため、年間を通して安定した稼働率を確保することがむずかしかった。
- ・新規の利用者には祝祭日利用をすすめながら、平日利用にも移行できるようにしている。

3 サービス提供について

- ・低学年の利用者が増え、特性に合わせた活動をしたり上級生を模倣して活動を共にしたりすることで、相手を理解して次第に交流が深まる様子が見られた。
- ・グリーンヒルキッズの特質である『学習支援』『生活スキル向上のためのSST』のさらなる向上を図るため、職員の資質向上・スキルアップの研修を行う必要がある。
- ・毎月1回行う『父母の会』は、コロナ感染防止のため、開催を見合わせる商況が続いた。講師を招聘した回では、それぞれの課題について話し合うことで、子どもとの向き合い方や関わり方、考え方などを見直す良い機会となった。今後もこのような場を設けていきたい。
- ・学校などの関係機関とのさらなる連携に努める。

令和2年度 グリーンヒル若葉ハウス 事業報告
(自立援助ホーム)

1. 運営状況（1日付の在所人数）

- ・年間延べ人数51名、月平均4.3人であった。
- ・新規入所：6月1名、9月2名、3月1名の合計4名。
- ・退所人数：6月1名、9月1名、1月1名、2月1名の合計4名。
内2名は家庭復帰、内1名はアパートを借り自立。内1名は他ホームへ移動した。
- ・一時保護委託が2月中に1名。
- ・年間措置費収入が、23,356,053円
- ・千葉県より、「千葉県児童養護施設等の生活向上のための環境改善事業補助金」5,134,000円、「児童養護施設等体制強化事業補助金」1,062,000円を受けることができた。

2. 支援内容について

- ・退所児における積極的なアフターケア体制を取ることができた。
- ・性知識の不十分さから異性交遊について課題を抱えるケースが多くあったことからホームでの性教育を行った。
- ・新型コロナウイルスに関してホーム内の衛生対策を徹底した。発熱等の症状のある入所児の隔離措置を行いPCR検査を受けた。

3. 研修（外部）

- ・全国自立援助ホーム交流会（令和2年9月30日）
- ・NPO法人子どもセンター帆希スタッフ研修会（令和2年11月14日、21日）
- ・南関東ブロック自立援助ホーム研修会（令和3年1月22日）
※オンラインで開催されました。

研修（内部）

- ・性についての勉強会（令和2年9月13日）

4. 会議

- ・毎月1回

5. 年間の利用状況（1日付在所）

単位：名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
措置	4	4	4	4	4	5	5	5	5	4	3	4	51
一時保護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	4	4	4	4	5	5	5	5	4	3	4	51

※ 一時保護 1名 2/3～2/24（21日間）

6. 今後の課題

- ・知的障がいや発達障がい、虐待少年などの入所打診が増える中、そのような子どもたちの支援の在り方や安全確保について研修を重ね、幅広い支援ができるようスキルアップを目指していく。

以上

・地域住民への企画

・みんなの体操の広場

勝田台地域の認定者数の増加も見られ、後期高齢者も増加していることから介護予防・自立支援の視点で、地域に向けて定期的な運動の機会の提供や健康への意識増進のため、中央公園で平日夕方にラジオ体操を開催、参加延べ7422人の参加実績があった。参加者からは、参加を継続したことで「体力が付いた」「腰や膝の痛みが軽減した」などの声も聞かれている。

・地域の団体の後方支援

・年金者組合（やちよ元気体操の指導）

6. 介護予防普及啓発事業

・いきいき教室 15回開催

7. 認知症地域支援・ケア向上業務

・認知症サポーター養成講座

・担い手養成講座参加者向け

・八千代高校（コロナ禍における開催の為、法人の協力を得て初めてオンライン開催）

・家族交流会

・認知症ケアパスの活用

・認知症初期集中支援チームとの意見交換

8. 第2層生活支援コーディネーター業務

・1層協議体への参加 ・2層協議体の開催 ・サロン運営者の交流会

・担い手養成講座 ・担い手養成講座受講者の交流会 ・地域住民の活動支援

9. 介護予防（要支援1・2）プラン作成 実績

1年間国保連請求総数1,966件（地域包括838件・委託1,128件）年間新規40件となっている。プランナーが常勤で1名配置出来ていることで、地域包括でプラン作成ができています。プランについては、コロナ禍を理由に利用しない方の対応にも介護保険制度の配慮があり請求には大きな影響はなかった。

10. 連携のための会議

・運営推進会議

・小規模多機能型居宅介護サテライトグリーンヒル勝田台運営推進会議

・民生・児童委員定例会議

・八千代市高齢者虐待防止連絡会（書面）

・八千代市生活支援体制整備事業協議体

・地域包括支援センター各専門職会議

11. 新型コロナウイルス感染症に関連した取り組み

八千代市から地域包括支援センター向けに新型コロナウイルス感染症の対応マニユ

令和2年度 総務課 事業報告

- I 法人創立40周年を迎えるにあたり、関連事項等に関する事務対応について総務課をあげて取り組む
⇒新型コロナウイルス感染症の影響により記念式典等の行事は中止となり、記念誌発行のための写真等の情報提供および関係者への配布を行った。
- II 総務課内の各分野（人事・庶務・経理・情報）の取り組みについて、担当者を中心に他の職員と協力して成果を出す。
⇒年度当初【危機管理】をキーワードに各分野で取り組みを開始したが、新型コロナウイルス対策が中心となり、内容を一部変更した。

人事

- 災害等の非常事態発生に備え、各部門の意見を参考に全職員の安否確認や出社可否確認および緊急連絡方法のための体系作りに取り組む。
⇒（変更）職員にウイルス陽性者が発生した際の対応として、提携医療機関や保健所へ提供する緊急時連絡先（携帯電話）の集約および職員に対して行動記録の作成を依頼した。
- 外国人技能実習生の受け入れ2年目を迎え、2期生（4名）が早く日本の生活に慣れるように、1期生が経験を活かしながらアドバイスができる仕組みを整える。
⇒寮が同一物件で隣同士の部屋となり実習生同士のコミュニケーションがとりやすい環境づくりができ、生活指導員の定期訪問も効率化を図ることが可能となった。実習先がグリーンヒルとグリーンヒル八千代台の2か所になった関係で管理組合による月次の定期面談もZOOMを活用し対応している。

庶務

- 前年度の自然災害や感染症の発生による物流の混乱を教訓として、備品の適正な使用量や使用方法・および在庫管理についてシミュレーションを通して再検証し危機管理体制の更なる向上を図る。
⇒千葉県や八千代市からの助成金を活用し、コロナ対策として発生した「かかりまし費用（マスク・消毒・防護衣等）」分の備蓄を確保した。

経理

- 月別予算の数字と実態の数字を分析し適正な経営状態を目指す。
⇒事業所別に月次実績を福社会計担当者と確認しながら処理した。

情報

- インターネットやメール等の使用状況の調査を通じ、日常業務で取扱う個人情報等に対する職員の意識・スキルを高め、情報漏洩・損失などの事故を未然に防ぐ体制を準備・構築する。
⇒感染予防対策を最優先課題として、ZOOMの環境を構築し会議や研修等への参加に活用している。